



見落としがちな震災対策を

最近北海道内では地震が頻発しており、後発地震注意情報も発表されました。今回は見落としがちな対策3点を紹介しますので、震災対策の参考にしてください。

①パジャマは外で着られるものを



就寝時に地震が発生した場合でも、いち早く屋外へ避難できるようにするためです。要は「素早く屋外へ避難」できるようにしてください。

②揺れたら玄関を開ける



大きな地震で建物自体は持ちこたえても、揺れで各部分がきしみます。玄関ドアの枠がきしむと大人が体当たりしてもドアはびくともしない場合があります。「揺れたら開ける」を心掛けてください。

③非常用トイレの備蓄を



大きな地震により水道や下水道が停止し、自宅のトイレが長期間使えなくなる可能性があります。特に北海道の冬場は凍結の影響で復旧に時間がかかるため、各家庭での「非常用トイレの備蓄」しておくことが重要です。備蓄の目安は1人あたり1日5回×3日～1週間分(15～35回分)です。災害時は入手困難になるため、平常時に非常用トイレを購入しましょう。

救急出場状況 (4月分)



火災	1件 (1人)
交通事故	2件 (不搬送)
急病	3件 (3人)
4月計	6件 (4人)
年間累計	119件 (113人)

※ () 内は傷病者搬送人員



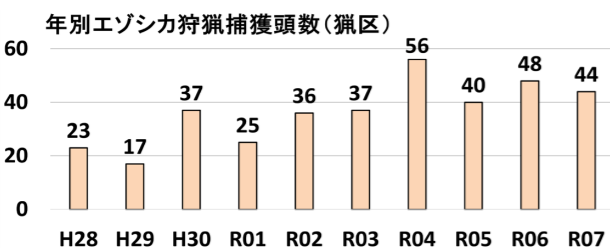
野生動物対策の状況

農林課林業振興室
野生鳥獣専門員
TEL 56 - 2174

エゾシカ

4月の駆除数は80頭と同月としては過去10年で最多でしたが、一転5月は半ば時点で減速気味です。6月はシカの出産が多い時期となります。子ジカは生後すぐには母ジカと共に活動せず、隠れてじっとしています。子ジカを発見しても離れた場所に母ジカがいるので、むやみに近づかないようにしましょう。

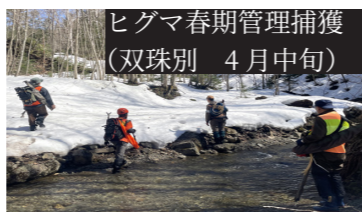
昨年10月から今年4月にかけての令和7年度猟区において、占冠村猟区には道内外から41名の利用があり、計44頭の鹿を捕獲しました。また、実技研修も度々実施できました。これからも安全な狩猟文化と技術を全国に普及します。



ヒグマ

4月下旬に鶴川沿いのポイントマム合流地点付近の区間で親子グマの目撃が相次ぎましたが、その後5月14日現在まで情報は途絶えています。現在までの活動情報としては例年と比べやや少ないですが、住宅や農地周辺で散発的な活動情報があります。例年夏に向けて住宅地周辺や農地での出現が増え、遭遇リスクが高まります。屋外に生ごみを放置しないことや草刈りによる見通しの確保など、誘引予防と被害防止に努めましょう。

4月にはヒグマの人里出没抑制と対策技術者育成を図ることを目的とした春期管理捕獲を実施しました。総勢5名で残雪の山を歩き、ヒグマの捜索を行いました。足跡が残っていたものの個体の発見には至りませんでした。今後もこのような機会を生かし、担い手の育成に取り組んでいきます。



ヒグマ春期管理捕獲 (双珠別 4月中旬)



地域とともに

令和8年度の占冠中学校

4月には、新入生3名を迎え、全校生徒7名、教職員11人で、令和8年度をスタートしました。今年度の重点目標は、「夢を持ち、これからの時代を歩み続ける子ども」です。占冠中学校の生徒数は減少傾向にありますが、逆に生徒一人一人には全教職員で目を向けることができます。そのことを利点と捉え、それぞれの生徒がもっている可能性や良さを伸ばし、さらには、生徒自身もまだ気付いていない可能性や良さを見つけ出す教育活動を推進しています。



部活動の地域移行

部活動の地域移行の推進に関わり、占冠村では国の「地域クラブ活動に関する認定制度」に基づき、下記の2つの団体を「占冠村認定地域クラブ活動」として認定しています。

<地域クラブ>

- 占冠村ソフトテニス少年団(占冠中学校テニス部は左記少年団へ移行済)
- しむかっぶ書道倶楽部

上記認定クラブについては占冠村教育委員会社会教育担当が主体となり、認定を受けた各クラブの指導者が中心となって活動を進めています。社会教育担当が主体となることで、村全体で「子供たちの放課後」を支える仕組みが構築されています。また、経験豊富な地域指導者が指導を担うことで、子供たちは継続的に質の高い指導を受けられるようになりました。指導者として、中学校の教職員も「兼業」として関わり、学校での生徒の様子と地域活動での姿を一体的に把握できる体制になっています。



こちら駐在所です

占冠駐在所
TEL 56 - 2110

三輪車の交通事故防止

～急ぐほど 狭まる視野と 増すリスク～



○交通ルール・マナーの遵守

スピードの出し過ぎは、カーブを曲がりきれず対向車線へはみ出したり、路外へ逸脱する事故に繋がる恐れがあります。また、ちょっとした路面の変化によりバランスを崩し、転倒してしまう恐れもありますので、制限速度をしっかりと守りましょう。無理な追い越しも、正面衝突等の重大事故に直結しますので絶対にやめましょう。

○バイクの特性の理解

バイクは車体が小さく、車のドライバーからは、ミラー等の死角になって見落とされたり、距離感や速度感覚がわかりにくく、特に交差点では、いわゆる「右直事故(右折車と対向車線の直進車が衝突する事故)」の当事車になるケースがあります。運転する際には、双方の車両の特性を理解した上で、お互いに慎重な運転に心がけましょう。

○ゆとりをもったツーリング

ツーリング中にバイク仲間から遅れ、その遅れを取り戻そうと自分の技量を超えて無理な運転をしていますが、無理な運転は、交通違反や交通事故を引き起こし、命を落とす場合もあります。仲間とツーリングをする際には、仲間同士でゆとりをもった計画を立てることや、仲間から離れてしまった場合の集合場所をあらかじめ決めておくことが大切です。